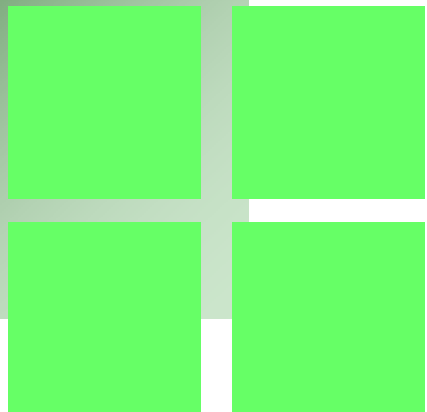
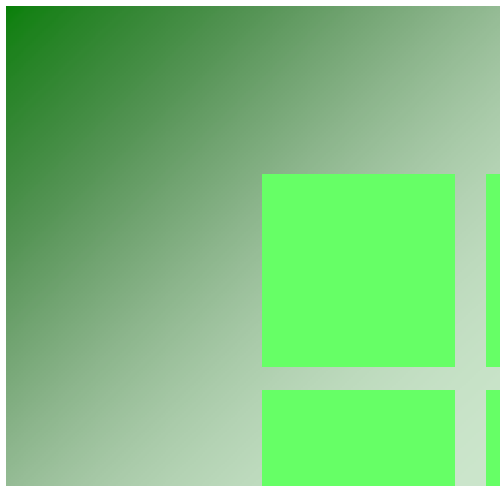


# 日本社会福祉学会 第58回春季大会



●日時:2010年3月27日(土)  
15:15~17:45

●会場:東洋大学白山キャンパス  
6号館地下1階6B14教室



**主催:日本社会福祉学会**

## 一般社団法人設立記念企画

### 「社会福祉学に期待する一近接領域からの提言」

日本の社会経済は、現在も円高・デフレ不況連鎖の中で、その出口（例えば、景気回復や社会保障・社会福祉のセーフティネットの再構築等）を模索し低迷している。

社会福祉の領域では、雇用情勢の悪化による雇用不安やホームレス問題、自殺者の継続的な増加、外国人の雇用問題や生活問題が社会問題化し、高齢者虐待や若者の犯罪等も増加し続けており、あらゆる面で安全網（セーフティネット）の綻びが顕著になっている。

2009年8月の衆議院総選挙において歴史的な政権交代がなされた。しかし、新政権は、従来からの年金、雇用、医療、福祉、少子高齢化、貧富の格差、地方の衰退、環境問題など包括的に解決する政治政策課題の対応に苦慮している。このような状況の中で、社会福祉にかかわる政策・実践・援助技術への社会的な関心が高まっている。

こうした状況を背景に、日本社会福祉学会第58回春季大会では、本学会が任意団体から一般社団法人となる法人設立記念企画として、各研究領域において社会福祉学の課題について積極的にご発言されている方々に、近接領域からみた社会福祉学および本学会への期待や注文等について忌憚なく語っていただくこととした。そして、本学会長がそれらに答えて、本学会及び社会福祉学に課せられた役割を明らかにし、学会の将来展望について表明する機会としたい。

#### 【プログラム】

##### ■ 開会挨拶 15:15～15:25

日本社会福祉学会 副会長 高橋 重宏（東洋大学教授）

##### ■ 趣旨説明 15:25～15:30

司会：日本社会福祉学会研究委員会 委員長 杉村 宏（法政大学教授）

##### ■ 近接領域からの発言

提言Ⅰ：上野千鶴子氏（東京大学大学院教授） 15:30～16:00

ジェンダー・女性学、ケア学の立場から

提言Ⅱ：本間 義人氏（法政大学名誉教授） 16:00～16:30

居住福祉学、住宅政策学の立場から

（休憩 16:30～16:40）

提言Ⅲ：二木 立氏（日本福祉大学副学長） 16:40～17:10

医療経済・政策学の立場から

##### ■ 提言に答えて

日本社会福祉学会 会長 古川 孝順（東洋大学教授） 17:10～17:40

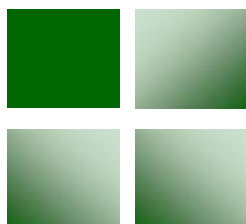
##### ■ 閉会挨拶 17:40～17:45

日本社会福祉学会 副会長 白澤 政和（大阪市立大学大学院教授）

（プログラムの進行上、時間は多少ずれる場合があります）

## ■ 提言 I

### ■ 上野 千鶴子 氏 (東京大学大学院教授)



#### 【プロフィール】

京都大学大学院社会学博士課程修了。平安女学院短期大学助教授、コロンビア大学客員教授、メキシコ大学大学院客員教授等を経て、1995年に東京大学大学院人文社会系研究科教授となり現在に至る。

専門は女性学、ジェンダー論、セクシュアリティ研究、家族社会学など。近年は、高齢者の介護問題にも関わっている。

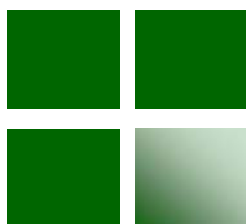
主な著書に『主婦論争を読む』(1982)『家父長制と資本制』(1990)『近代家族の成立と終焉』(1994)『ナショナリズムとジェンダー』(1998)『差異の政治学』(2002)『おひとりさまの老後』(2007)『男おひとりさま道』(2009)等がある。

#### 【提言要旨】 ジェンダー・女性学、ケア学の立場から

10年前にはわたしは社会福祉の業界のまったくの新参者だった。福祉の領域への参入は、わたしにカルチャーショックをもたらした。それから10年、日本社会福祉学会へ、「近接領域からの提言」者としてお招きいただけるようになってたいへんうれしい。いただいたお題は「ジェンダー・女性学、ケア学の立場から」というものだが、福祉は、その多くを女性に支えられておりながらジェンダー視点を欠いていることは、かねてから指摘されてきた。それにわたしは「当事者視点」を付け加えたい。医療と同じく福祉もまた、長きにわたってパターンリズムの支配してきた領域だったからである。超高齢社会を迎えて、だれもが社会的弱者になる蓋然性が高くなった今日、福祉は特殊な人たちを対象にした特殊な領域ではなく、だれもが関係する普遍的な領域となった。その意味で社会福祉学はますます学際的になる必要があるし、他分野の研究者が参入してくることがのぞまれる。ケアの現場で多職種連携が必要なように、研究の分野でも領域横断的な連携が必要だろう。

## ■ 提言 II

### ■ 本間 義人 氏 (法政大学名誉教授)



#### 【プロフィール】

早稲田大学卒業。毎日新聞社編集委員、九州大学大学院教授を経て、法政大学教授に就任。2006年4月より同大学名誉教授となり現在に至る。

専門は都市・住宅政策、国土・地域政策。

都市・住宅政策に関する主な著書は『内務省住宅政策の教訓』(1988)『自治体住宅政策の検討』(1992)『戦後住宅政策の検証』(2004)等。国土・地域政策に関する主な著書に『国土計画の思想』(1992)『まちづくりの思想』(1994)『地域再生の条件』(2007)『居住の貧困』(2009)等がある。

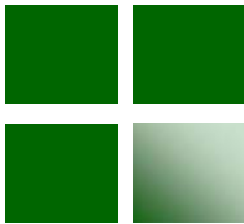
#### 【提言要旨】 **居住福祉学、住宅政策学の立場から —生存権確立のための理論構築を—**

人権としての生存権のうち居住権は大きな意味を持つ。しかし、わが国ではこれが顧みられないできているために、居住貧困、居住格差、居住不安が増幅するばかりとなっています。憲法第25条は国民の生存権保障をうたい、国際的には1996年にイスタンブールで開催された国連人間居住会議（ハビタットII）において居住権を実現する宣言が採択され、わが国もこれに署名しているのにです。これは政治的怠慢にほかなりません。

この怠慢の大きな理由の一つに1967年「朝日訴訟」以降、憲法がうたっている生存権を単なるプログラム規程とした憲法解釈が固定化したままであることが挙げられます。この固定化された憲法解釈を先進国にふさわしいものに変更していく以外に、わが国において生存権を真に確立する道はありません。そのため理論確立こそ日本社会福祉学会の大きな役割ではないでしょうか。学会にはそのための理論闘争を期待してやみません。

## ■ 提言 Ⅲ

### ■ 二木 立 氏（日本福祉大学副学長）



#### 【プロフィール】

東京医科歯科大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院リハビリテーション部、代々木病院病棟医療部長・救急医療部長等を経て、1985年より日本福祉大学に赴任。同大学社会福祉学部長等を歴任し、2009年より同大学副学長・常務理事を務める。

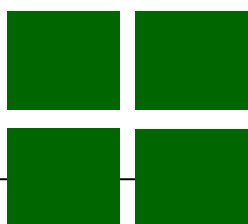
専門は医療経済・政策学。

主な著書に『医療経済学』（1985）『リハビリテーション医療の社会経済学』（1988）『保健・医療・福祉複合体—全国調査と将来予測』（1998）『介護保険制度の総合的研究』（2007）『医療改革と財源選択』（2009）等がある。

#### 【提言要旨】 **医療経済・政策学の立場から** — **民主党政権の社会福祉・社会保障政策の** **総合的研究を行いませんか** —

医療経済・政策学とは「政策的意味合いが明確な医療経済学的研究と、経済分析に裏打ちされた医療政策研究との統合・融合をめざし」た新しい学問です。この用語は、『講座 医療経済・政策学』（全6巻。勁草書房）で初めて用いられましたが、私自身はこの視点から、1985年以来25年間、時々の政権の医療政策の「生きた」研究と政策提言、および政策的意味合いが明確な実証研究を行ってきました。昨年夏以降は、民主党（政権）の医療政策の研究を続けています。報告では、そのサワリを紹介します。

この研究を通して気づいたことは、民主党政権の社会福祉・社会保障政策には一貫した理念がなく、個々の政策の整合性もなく、財源の裏付けにも欠けることです。前政権の政策と比べると、連続性が強い分野（医療。介護も？）と、断絶が強い分野（子ども手当。障害者福祉も？）との「まだら色」であり、どの分野を重視するかで評価が相当異なってくるようです。それだけに、社会福祉学とその近接領域の研究者が共同して、民主党の社会保障・社会福祉政策の分野横断的な総合的研究を行う必要を痛感しています。



## 提言に答えて

### ■ 古川 孝順

(日本社会福祉学会会長／東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科委員長)

#### 【プロフィール】

日本社会事業大学社会福祉学部卒業。東京都立大学大学院人文科学究科修士課程修了。日本社会事業大学教授を経て、東洋大学社会学部、ライフデザイン学部教授を歴任。日本社会福祉学会総務担当理事、副会長を経て現在会長。

主な著書に、『子どもの権利』(1982)、『社会福祉学序説』(1994)、『社会福祉のパラダイム転換』(1997)、『社会福祉学』(2002)、『社会福祉原論』(2003)、『社会福祉学の方法』(2002)、Social Welfare in Japan : Principles and Applications, Trans Pacific (2007)、『社会福祉研究の新地平』(2008)、『社会福祉の拡大と限定』(2009)。

#### 社会福祉学研究の位相とレベル

研究の位相	研究対象のレベル			研究の性格
	政策レベル	制度レベル	援助レベル	
課題の設定	政策課題の設定	制度課題の設定	援助課題の設定	規範科学（べき論）
実態の把握	政策課題の実態分析	制度課題の実態分析	援助課題の実態分析	分析科学（ある論）
施策の設計	政策の企画と策定	制度の設計と構築	援助の方針と計画	設計科学（できる論）
施策の展開	政策の遂行	制度の運営	援助の展開	実践科学（する論）

古川孝順（2008）『社会福祉研究の新地平』（有斐閣）より